

平成 21 年 5 月 20 日

各 位

会 社 名 株式会社フォーバル
 代表者名 代表取締役会長兼社長 大久保 秀夫
 (JASDAQ・コード番号8275)
 問合せ先 取締役管理本部長 加藤 康二
 電話 03-3498-1541

業績予想の修正及び特別損失の発生ならびに繰延税金資産の取崩しに関するお知らせ

当社は本日開催の取締役会において、平成 20 年 11 月 13 日に公表した平成 21 年 3 月期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）の業績予想の修正を行うことを決議いたしましたのでお知らせいたします。同時に特別損失が発生しましたこと及び繰延税金資産の取崩しを行うこととしましたことをお知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 3 月期の個別業績予想数値の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
					円 銭
前回予想 (A)	13,000	380	450	300	21.80
今回修正 (B)	12,486	201	338	△ 2,697	△ 196.00
増減額 (B - A)	△ 514	△ 179	△ 112	△ 2,997	△ 217.80
増減率	△ 4.0%	△ 47.1%	△ 24.9%	—	—
(ご参考) 前期実績	12,900	△ 591	△ 376	15	1.11

2. 平成 21 年 3 月期の連結業績予想数値の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
					円 銭
前回予想 (A)	35,000	450	400	300	21.80
今回修正 (B)	34,358	112	17	△ 1,879	△ 136.58
増減額 (B - A)	△ 642	△ 338	△ 383	△ 2,179	△ 158.31
増減率	△ 1.8%	△ 75.1%	△ 95.8%	—	—
(ご参考) 前期実績	34,323	△ 933	△ 1,264	△ 532	△ 38.66

3. 業績予想の修正の理由

【個別】

前回の予想に対して電話機等の機器関連売上が減少していること等により粗利益が減少し営業利益は201百万円、経常利益は338百万円となる見通しです。当期純利益に関しては投資有価証券評価損378百万円、投資事業整理損1,549百万円、営業権等の減損損失442百万円などの特別損失2,718百万円を計上すること及び繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、法人税等調整額531百万円が発生するため当期純損失は2,697百万円となる見通しです。

【連結】

前回の予想に対して前述したフォーバルの営業利益の減少と、一部子会社においてのれんの償却を上回る営業利益を計上できなかったこと等により営業利益、経常利益が未達成となる見通しです。当期連結純利益に関してはフォーバルにおいて営業権やのれんの減損損失、投資有価証券の評価減などの特別損失を計上したこと及び繰延税金資産の取崩しを行ったことが主たる要因となり1,879百万円の当期連結純損失となる見通しです。

4. 特別損失の発生について

(1) 投資事業整理損

【個別】

当社は関係会社を通して新規事業を行っており、当該会社に対し株式保有や貸付の実行をしております。

今般の世界的金融情勢の悪化に伴い急激に事業環境が厳しくなった状況下で当社が投資した資金の回収可能性を検討し1,549百万円を投資事業整理損として計上いたしますが、主な内訳は以下の通りです。

子会社フォーバルキャリアファームは人材派遣、人材紹介の事業を行っていましたが経営環境の変化により事業を休止することとしたため子会社株式及び貸付金のうち747百万円を、子会社エーゼットがモバイル端末等を利用した営業支援等のシステム企画及び開発を行ってまいりましたが、事業規模を大幅に縮小することにしたため貸付金等474百万円を事業整理損として計上することとしました。

なお連結上ではその大半が消去されるため連結への影響額は6百万円で、その他特別損失として計上いたします。

(2) 減損損失

【個別】

当社はITリスク、物理リスク、組織リスクに対するセキュリティビジネスの将来性・可能性を高く評価し、海外で既に展開しているセキュリティビジネスを日本で展開するための営業権を所有していましたが、経済環境の悪化により一時期高まるかに見えたセキュリティに対する投資意欲の減退、優先度の劣後が顕著で営業権の回収可能性が長期化すると判断して減損することとしました。これに加えモバイルセキュリティに関するソフトウェア資産なども減損することとし、減損損失442百万円を計上いたします。

【連結】

個別で発生した減損損失の他に連結子会社の「のれん」の評価を今後の業績見通しを勘案して見直した結果、フォーバルテレコムの子会社（添付資料をご参照ください）、前述のイーゼットなどに対するのれんに関して、投資回収が長期に渡ると考えられるため202百万円、事業用ソフトウェア資産について160百万円、その他資産の減損を加えて総額で812百万円を計上します。

(3) 投資有価証券評価損

「其他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復可能性が認められないものについて、投資有価証券評価損を計上いたします。

平成21年3月期における有価証券評価損

	単体	連結
(A)平成21年3月期第4四半期会計期間(平成21年1月1日から平成21年3月31日まで)の有価証券評価損の総額(=イーロ)	123 百万円	129 百万円
(イ)平成21年3月期第4四半期累計期間(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)の有価証券評価損の総額	378 百万円	387 百万円
(ロ)直前四半期(平成21年3月期第3四半期)累計期間(平成20年4月1日から平成20年12月31日まで)の有価証券評価損の総額	255 百万円	258 百万円

※四半期における有価証券の評価方法は、洗替え方式を採用しております。

※当社の決算期末は、3月31日です。

○純資産額・経常利益額・当期純利益額に対する割合

	単体	連結
(B)平成20年3月期末の純資産額	10,658 百万円	7,178 百万円
(A/B×100)	1.2 %	1.8 %
(イ/B×100)	3.5 %	5.4 %
(C)平成20年3月期の経常利益額	△376 百万円	△1,264 百万円
(A/C×100)	- %	- %
(イ/C×100)	- %	- %
(D)平成20年3月期の当期純利益額	15 百万円	△532 百万円
(A/D×100)	820.0 %	- %
(イ/D×100)	- %	- %

5. 繰延税金資産の取崩しについて

当社は税効果会計に係る会計基準に従って繰延税金資産を計上しておりますが、将来の回収可能性を検討した結果、繰延税金資産480百万円を取崩し個別において531百万円、連結において532百万円の法人税調整額(損)を計上いたします。

6. 子会社の業績予想の修正について

本日、当社子会社のフォーバルテレコム（東証マザーズ：9445）が平成20年11月13日に公表した業績予想の修正を行いました。この影響額は当社が本日開示いたしました連結業績予想の修正に含まれております。

（別添）フォーバルテレコム 「業績予想の修正に関するお知らせ」

以 上